

敬老会

1万3千人の長寿を祝福

22年度市敬老会は9月から11月にかけて、地域・地区ごとに催されています。招待者は昭和6年4月1日までに生まれた今年度満80歳以上になる人。9月1日現在で1万3199人(一関5250人、花泉1880人、大東2372人、千厩1480人、東山887人、室根797人、川崎533人)で、そのうち88歳の米寿は669人です。

それぞれの会は、福祉活動推進協議会や自治会など、各地域・

地区の皆さんの企画による細やかな配慮と心のこもった運営により進められました。祝い品贈呈や勝部市長からのあいさつなど、祝賀ムードの中、出席者が高らかに乾杯。祝宴では、当祝者の皆さんが近況を報告し合ったり、地域の皆さんによる祝いの歌や踊りで健康長寿を祝いました。そのうち、9月8日千厩町のマリージュで行われた奥玉地区敬老会には、当祝者347人のうち178人が出席しました。



上 奥玉保育園児らのアトラクションに目を細める奥玉地区敬老会出席者
下 東山町の特別養護老人ホームやすらぎ荘敬老会で達増知事から祝い状を受け取る佐藤吉之進さん(左)

勝部市長が「激動の時代を歩み幾多の困難を乗り越えてこられたご苦労に敬意を表します。皆さんのご健康とご多幸を心から祈ります」とあいさつ。祝宴では奥玉保育園児が「エビカニクス」「在郷サンバ」を元気に踊り、参加者は子供たちの演技に目を細めて拍手を送っていました。また、市内の各介護保険施設でも敬老会が行われました。東山町の特別養護老人ホームやすらぎ荘敬老会では9月20日に行われ、達増拓也知事がお祝いに駆けつけました。達増知事は「皆様のご苦労の上に豊かな社会が作られました。これからもお元気で過ごしてください」と祝辞を述べ、今年度100歳を迎える三澤キヨヘさんと佐藤吉之進さんに祝い状と記念品を手渡しました。

入所者代表の高橋テイさん(91)は「たくさん皆さんの集まりいただき、お祝いの言葉や記念品など、ありがとうございます。お陰さまで毎日楽しく暮らしています」と謝辞を述べました。記念撮影の後は祝詞が披露され、和やかに祝宴が行われました。

2次募集で6事業を採択

地域おこし

■地域おこし第2次採択事業

区分	事業名	実施主体
一般	一体感のある地域づくりを推進する	
若者	猿沢秋祭り	猿沢秋祭り実行委員会
若者	年代や職業などを問わず、多様な人材を育成する	
若者	いちのせきキッズ・プロジェクト〜ドリームキッズと中川たかひろ&サキソフォビアによるファンタジックコンサートVol. 3	いちのせきキッズ・プロジェクト・サポーター
若者	来て未来んアカデミー事業(人材力×連携×未来塾=∞)	未来塾実行委員会
一般	活発な産業活動を促すことにより所得の向上を図り、心身ともに健康な生活を送ることができる環境を整える	
一般	「いわて大東屋」地域活性化プロジェクト	「いわて大東屋」地域活性化プロジェクト実行委員会
一般	「もちの里いちのせき」アピール事業	一関・平泉もち街道の会
一般	市民自らが発案し行動することにより、積極的な地域づくりを行う	
一般	エジプトとの友好親善促進事業	北上川リバーカルチャーアソシエーション

※事業名の「般」は一般事業「若」は若者が主役「女」は女性が主役



プレゼンテーションの様

流人口の増加が見込めるか―などの観点から審査。その結果、▼地域おこし一般4事業▼若者が主役の地域おこし2事業―の6事業を採択し、305万円を助成することに決定しました。

審査員の一人、松川栄一さんは「事業の実施後は、目標が達成できたかの評価をしてほしい。採択事業が『元気な地域・一関』を象徴するようなモデル的な事業になることを願います」と語りました。

本年度の地域おこし事業は、当初採択分と合わせて35事業、助成額1869万8千円となりました。

◎問い合わせ先
本庁協働推進課
☎08671

前市長の浅井さん

国土交通大臣表彰を受賞



浅井東兵衛さん

前市長の浅井東兵衛さん(83) 萩荘氏は、平成22年度建設事業関係功労者として国土交通大臣表彰を受賞しました。市長在職中、長年にわたり北上川上流改修期成同盟会長を務め、河川事業の推進に尽力したことが評価されたものです。浅井さんは平成11年、旧一関

市長に就任。合併後、21年10月まで本市の初代市長を務めました。その間の10年余、北上川上流改修期成同盟会長をはじめ、一関遊水地事業促進協議会長、北上川ダム整備促進協議会副会長などを歴任し、北上川流域の水害被害の軽減に努めました。治水対策にかける思いの原点は、昭和23年のアイオン台風の被災体験。一夜を屋根の上で過ごした経験を振り返りながら「本市にとって治水対策は永遠の課題。共生しなければならぬ一方、対策を怠ってはならない」と語りました。

戸籍に登録されている100歳以上の所在不明者

全国的に高齢者の所在不明が相次いでいます。市内に本籍のある人のうち、戸籍に登録されているものの、所在が不明となっている100歳以上の高齢者は254人(8月27日現在)いました。このように、高齢者が戸籍の上だけで残っている原因は、▷海外移住し、戸籍がそのまま残ったもの▷身元不明の死者のため、本籍不詳により正当な本籍地に死亡届が提出できなかった―などです。

今後、戸籍事務を管轄する法務局と協議の上、速やかに削除するなど、適切な整理をしていきます。なお、市内に住民登録をしている100歳以上の人については、全員の所在確認が取れています。◎問い合わせ先…市民課登録係

本 消 部 防

障害突破で全国2位入賞



2位の成績を取った障害突破の選手たち(後列5人)と、20位に入賞したほふく救出の選手たち(前列3人)

8月27日、京都市で行われた全国消防救助技術大会に、市消防本部から2チームが出場しました。障害突破で全国2位という好成績を収めたほふく救出も減点ゼロで20位入賞を果たしました。

本市のチームは6月25日、矢巾町で行われた県大会で、ほふく救出、障害突破いずれも1位。全国大会への出場資格は種目ごとに異なり、ほふく救出は県1位が全国出場。障害突破は7月29日、矢巾町で行われた東北地

区支部技術指導会で19チーム中1位となり、全国大会出場を決めました。ほふく救出は、マンホールなどでの酸欠事故を想定し、3人一組で競技するもの。▽齋藤裕哉消防士長(西消防署)▽千葉直也消防士(南消防署)▽菊地友哉消防士(北消防署)―が出場しました。障害突破は、5人一組で、経路に設けられた5種類の障害を協力して突破する競技で、▽荒屋敷山分署)▽鈴木覚也消防士長(西消防署)▽菊池憲哉消防副士長(南消防署藤沢分署)▽菅原正憲消防士(東消防署川崎分署)▽三浦康之消防士(西消防署)―の5人が出場しました。

障害突破のリーダーを務めた荒屋敷消防士長は「消防の目的は住民の生命・身体・財産を守ることで、大会は目的達成のため一つの手段。結果は1番とはいかなかったが、住民にとって1番の消防になれるよう努力を重ねたい」と振り返りました。